

「あんしん」の絆づくり

JAあづみ 総務開発事業部 福祉課 池田陽子

「住みなれた土地、住みなれた家でつつがなく明るくいいきと暮らしたい」そんな誰もが思う夢の実現に向け「できる人ができることをできる時に」活動を続けて12年。真に「子どもたちが安心して」「高齢者が生き活きと生きがいを持って元気に」暮らせる地域を目指し、人と人との絆を基本に、家庭や地域で助け合って暮らせる里づくりに取り組んできた。

JAあづみは、2年後の介護保険事業へ向け、平成10年3月に福祉課を新設した。と同時に、JAが取り組むべき高齢者福祉の姿を見据え、地域の中で支え合い助け合う、会員制の有償在宅サービスを立ち上げた。組合員が高齢化し、人間関係も希薄になる中で、「困った時はお互い様」という古くて新しい縁づくりが必要と考えたからだ。

JAの長期構想に向けたアンケートでも、JAに望むのは高齢者福祉活動の充実だった。根底には、健康・老後・農業への不安があった。この地で安心して生き続けたいという気持ちを「あしたへのあんしん」という詩に込めて、皆が力を出し合って安心して暮らせる里を創り続けようと呼びかけた。

そのために、学び、話し合い、協同活動を行う「生き活き塾」を開講して、学んだことを家庭や地域で実践してもらった。目標を決めたら、企画から実行、財源の手当まで、参加者が自ら主体的に行う。これこそ協同組合運動としての原点にほかならない。

自ら「したいこと、できること、今やるべきこと」を考え、それを繰り返し実践する中から、自分自身の知恵や能力を発揮する活動を進めた。平成12年の寄合所『あんしん広場』をはじめ、14年「ふれあい市五づくり畑」、16年「菜の花プロジェクト安曇野」や「朗読ボランティア」と、多彩な活動が生まれた。

JAらしさを前面に、食・農・健康に関わる活動を進めたが、21年には「学校給食に食材を提供する会」も誕生した。これらの活動は地域や全国で支持され、安曇野市ブランドデザイン会議、豊科南小学校、早稲田大学、金城学院大学等とは、フットワーク軽くネットワークを組んで、チームワーク良く活動に磨きをかけている。

活動も10年を経た今、参加者も歳を重ね、地域の状況も変わった。安曇野でも「買い物難民」が増加している。そこで、22年10月皆で資金を出し合って軽トラックを購入、「御用聞き車“あんしん”号」が『あんしん広場』を巡回しはじめた。

幅広いものの考え方の中から、創造性と柔軟性、そして少しの勇気を発揮した結果だ。

これからも、参加者一人ひとりが持っている豊かな感性や発想を大切にして、活動を運動として進め、さらに多くの人たちとネットワークを築いていきたいと考えている。

(いけだ ようこ)